

天神川流域にお住まいの方々に意識調査を行いました

昨年秋に天神川流域およびその周辺地に在住の方を対象に、川についての住民意識調査アンケートを実施しました。地域の幼稚園・保育所、小学校、中学校のご協力を得、地域の方々にアンケートへのご協力をお願いしました。回収されたアンケートの結果がまとまりましたので、お知らせします。

アンケートは一般成人と小学生に対して行いました。それぞれについて結果をまとめていきます。

■一般成人■

天神川流域では、身近な川に行く回数がほぼ毎日である人が半数以上いるなど、川が身近な存在となっています。そして、この身近な存在の川に対しては、自然豊かで清らかな川という印象を持っている人が多くいました。

また、多くの方が過去に川で遊んだことがあるけれど、今も日常的に川と触れ合う親水活動をしている人は少ないようでした。しかし、自然豊かで清らかな川や流域の環境を保全するためには、①住民の自覚、②行政・住民・専門家の連携、③子供への環境教育、が必要との意見が上位を占める結果となりました。



図 身近な川に行く頻度

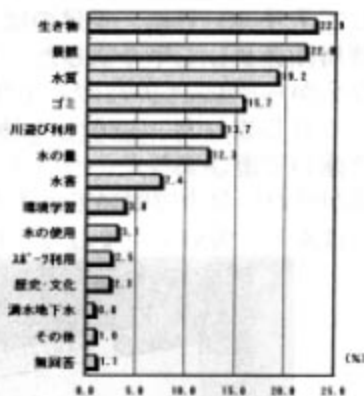


図 身近な川への関心事項

流域での活動としては、これまで河川清掃やまつり・イベントへの参加が多かったけれど、今後の希望を聞くと、これらの活動希望の他、自然や生物に関する活動をしてみたいとの意見が増えました。

■小学生■

小学校で川の学習をしたことがある子供は約6割いました。川を利用した環境教育は少しずつ広がりをみせている中、子供達はどのように川と接し、感じているのでしょうか？

天神川流域で、川で遊んだことがある子供と遊ばない子供の割合は同じくらいでした。このうち遊んでいる子供は魚釣りや水遊び等の活動的な遊びをすることが多いようです。一方、遊びたくない理由としては、おもしろくない、水が汚い等の理由があがりました。これらのマイナス原因を減らすことが、川への関心呼び戻すポイントとなるでしょう。

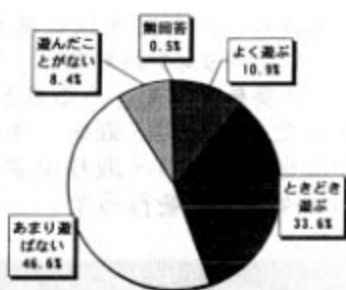


図 川で遊ぶ頻度

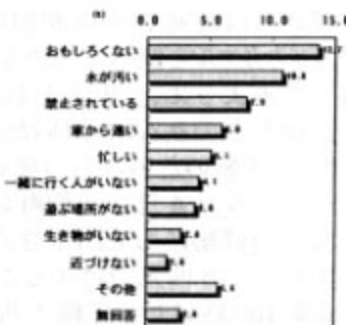


図 遊びたくない理由

今後、流域住民の方々の川や流域の様々な活動への参加を活発にしていくには、集まった意見をふまえて参加機会の拡大を図っていくことが重要であると考えています。

■ご協力下さった皆様、大変ありがとうございました■

「川のたからもの」をさがそう！ in 天神川流域

天神川流域およびその周辺の要所に「川のたからもの」をさがそう！の応募用紙を設置し、天神川流域の「川のたからもの」を地域の方々に応募してもらいました。

集まった情報は生き物の情報が多く、魚（アユ、サケ、コイ）やカニ、カジカガエル、ホタル、オオサンショウウオのいるところを「川のたからもの」としてあげる人が多くいました。

応募してもらった情報を地図に落としてみました(右図)。今後も様々なたからものを集めていきます。 ■たくさんの情報をありがとうございました■



【フォーラム開催のご報告】

平成14年6月2日「森と川と海のフォーラム」が開催されました

去る6月2日午後1時より、三朝町総合文化ホールにて、肥沃の森から豊かな海へーいのち輝く川を未来にーをテーマとして「森と川と海のフォーラム」が開催されました。

まず、基調講演がプロ水中写真家中村征夫氏により行われ、三徳川や海の水中写真を用いて、森と海の関係や豊かな森が重要であることが唱えられました。

次に三朝町立西小学校2年生による報告「かじかがえるとわたしたち」が行われました。（※関連記事）

最後に、中村征夫氏と地元の住民も交えたパネルディスカッションが行われ、アマチュアバンド・ビバファートの演奏も交えて、ふるさとや自然について語られました。海・川・森を一体のものとして考え、豊かな自然を守り・取り戻す必要がある。これからは様々な活動を行っていきましょう！という意見が出ました。



パネルディスカッション風景

フォーラム終了後には「かじか蛙の声を聴く夕べ」も開催され、炭焼きショーやおにぎり・うどん・とうふ等の炊き出しが振る舞われました。

■かじかがえるとわたしたち■（※関連記事）

去年1年間三徳川のカジカガエルとつきあってきた、三朝町立西小学校2年生による報告が行われました。

～始まりはこんな風でした。～

僕たちは教室でカエルが飼いたかった。先生が「私はカジカガエルを飼ってみたいから、カジカを卵から育ててみようよ。」と言われ、僕たちも賛成しました。僕たちのカエルを飼いたいという願いと、先生のカジカを飼いたいという願いが合体したのです。

そして6月4日、三朝町の恋谷橋にカジカ蛙保存研究会の御船さんや門木さん達とカジカを捕りに行きました。8匹見つけましたが全部雄でした（カジカは雄100匹に対して雌1匹しかいない）。

カジカは動いているものしか食べないので、生きたハエやクモを捕まえてきてやりました。カジカはバツとジャンプして、バクリと口の中に入れてしまいます。水槽の下から上までジャンプします。40cmもジャンプします。口から舌も出します。長い舌でした。～等々、カジカガエルの事をどんどん理解していきました。しかし、悲しい経験もありました。カジカガエルのお母さんの死です。～

死んでしまったカジカは三徳川で生まれて三徳川で大きくなって、三徳川が好きだから三徳川に流すのです。カジカのお母さんに、小さな花模様の着

物を着せ、小さな木の葉の数珠を持たせて、藍染めた小さな布団に寝かせてやりました。

7月になってしまったので、卵から返すのはあきらめ、オタマジャクシから飼うことにしました。そして7月31日に、手足のはえたオタマジャクシを三徳川に逃がしてやりました。オタマジャクシでも手のひらからビョンとジャンプして川に逃げていくのでびっくりしました。逃がした後わたしたちも三徳川で泳いで遊びました。今、その時に逃がしたカジカ達がきれいな声で鳴いています。

～ほんと、鳴いていました。おほおほおほ ビョルルルル～



三朝町立西小学校2年生の元気な発表風景

【天神川河川情報表示板設置のご紹介】

天神川河川情報表示板が設置されました

国土交通省では、防災意識の向上と河川愛護の啓発を目的に、河川情報表示板が平成13年度に流域内の天神川出張所構内、三徳川河川敷（三朝町山田）、小鴨川河川敷（関金町役場前）の3箇所に設置されました。

出水時には雨量情報等を流域住民にいち早く情報提供する役目を担っている他、出水のない時には流域の様々な情報の提供も行います。



■流域の様々な魅力やイベント等の情報がありましたらお寄せ下さい■

問合せ：国土交通省倉吉工事事務所調査設計第一課 電話 0858-26-6221 / ファックス 0858-26-6299